

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200083		
法人名	有限会社 総合建設		
事業所名	グループホーム いしくら(A棟)		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字高田21-7		
自己評価作成日	令和5年10月24日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

二つのユニットが台所、事務所を挟みつながっており入居者様が自由に行き来出来るようになっている。広いホールがあり、ゆったりとくつろげるようになっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年12月12日		

ホールが広く開放的で、悪天候で外に出られない冬期間でも室内で楽しく過ごすに十分なスペースがある。朝のラジオ体操に始まり昼食前の嚙下体操、午後からはレクリエーションでテーブル卓球をし、ピンポン玉の音と共に利用者の笑い声が響いていた。遊びながら楽しみながらの機能訓練である。敷地内の畑で野菜を育て、草を取り、収穫する一連の作業行為も利用者と共にやっている。コロナ感染対策中では当たり前に出た外食や外出が叶わず、屋内に閉じこもったままの状態ではストレスが蓄積されやすいため、短い時間でも近所を散歩する、ホームの庭でお昼ご飯を食べる等気分転換をし、周辺症状の増悪につながらないよう工夫していた。食事は栄養バランスよく、かつボリュームがある。当日の昼食に「おいしいな」と利用者が舌鼓を打っていた。人員不足ではあるが、職員一人ひとりの得意とする強みが最大限に発揮され、ケアに反映できている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホールに理念を提示し、職員全員が理解している。	開設当初からの理念であり、新しく入職した職員の意見も聞いてみたいとの社長からの提案で理念を見直す機会があったが、職員間で話し合い、変更しないこととなった。理念は玄関とホールに掲示し意識づけされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などの時は声を掛けあつたりの交流はある。	日常的に散歩をし、地域住民宅で育てている花を觀賞させてもらったり、いただいたりしている。職場体験で中学生が来訪し、利用者与会話したり、歌を披露してもらったりして交流した。近隣の保育園にも来訪してほしいと打診している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で地域の方へ参加をお願いし、そこで認知症の方への理解を深めてもらえるように話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イベントや普段の様子の写真などを資料に掲げ運営推進会議で報告している。出席者の方々の意見も聞き、今後のサービス向上に活かしている。	利用者の状況報告や行事やヒヤリハット等について報告している。外出時の様子を写真を見せながら説明している。参加者の地域住民から運動会への誘いを受け、利用者に参加したことがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡が取れるよう体制が整っており、わからない点はその都度連絡を取り合い、指導等頂いている。	役場主催で町内のグループホーム管理者が集い、情報交換をした。人員不足の悩みを共有したとのこと。生活保護受給者の金銭管理を社会福祉協議会で管理しているため、定期的に面談のため訪問があり、当日も面談を行っていた。町職員や社会福祉協議会との連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が理解できるよう資料を用意し、いつでも閲覧できるようにしている。また、定期的な研修を行い、身体拘束について学んでいる。	年2回の研修、3ヶ月に1回の会議を開催している。年間を通して担当職員が研修を企画し、スピーチロックの研修を行ったとのこと。次回はロールプレイを取り入れるか検討中。些細なことでも気づいたことを共有できるように、ヒヤリハットノートに職員一人ひとりが記入している。起きてしまった事案は軽微事故報告書に記入し、職員全員が意見を書き、回覧し共有している。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をいつでも目が通せるような状況にしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、本人、ご家族様に不安や疑問点を聞き、説明している。入所後も同様に対応している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時や面会時などに意見等聞いている。また定期的にアンケートを取るなどしている。	毎月のお便りや3ヶ月に1回状況報告をしている。面会時に意見を伺う等して、ケアプラン更新時にモニタリング記録表を家族へ郵送している。家族と疎遠になっている方が多いようだが、定期的に家族へアンケートを実施し、意見等を伝えられるような機会を作っている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	ミーティング時や面談等行い、意見を聞き、反映できるようにしている。	母体の会社役員と個別面談を定期的実施している。あえて場面を作らなくても職員から様々な意見が出てくるとのこと。休みの希望やシフトの要望、イベントの予算等多岐にわたり、意見が言いやすい環境にある。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の自宅や施設での訪問面談や、本人、ご家族のホームへの見学の間を設け、入居の納得、理解を得ている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に色々な説明や家族の話聞き、より良い関係作りに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑での野菜作りや調理の手伝い、洗濯物たたみなどそれぞれの能力に応じて手伝って頂き、いろいろ教えてもらったりして関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なお便りや手紙で状況を伝えている。面会時にも本人と話をしてもらったり、職員からも話をさせてもらっている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	近所の人や友人、知人などの面会時など、ゆっくりと話ができるようにしている。(現在は玄関もしくは事務所内での面会をお願いしている。)	入居を知った知人が訪ねてきたり、家族と一緒に自宅へ外泊したりしている。家族からの手紙が届き、代読することもある。継続的な交流ができるよう働きかけている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を把握し、レクリエーションや行事を通し、利用者同士の関係が円滑になるように支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後の経過報告があり、家族の方より相談なども受けていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録や本人の思い、意思等を確認したり、家族や周りの話も聞き本人の思いの把握に努めている。	入居前に意向を確認しているが、入居後に日常生活の中で聞いてみたり、環境に慣れた頃に確認すると、また違った答えが返ってくるなどのこと。そのため、その時々的心情を理解しようと努めている。意思疎通が困難な場合は家族からも情報収集している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や情報提供にて職員全員で共有している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	モニタリングや会議等で全職員の意見や考え等を聞き、介護計画に反映させている。	全職員がモニタリングに実施状況を記入し、意見をもとに変更か継続か話し合い、課題整理総括表でニーズの抽出を行って介護計画書を作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や様子を記録し、ケアカンファレンス時に個々の状態を確認し実践や計画に活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問や地域行事への参加を増やせるよう努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察が出来るように支援している。また、相談できるかかりつけ薬局がある。	協力医以外にも、入居前からのかかりつけ医や歯科医に受診できるように支援している。職員が通院介助し、受診内容を受診記録と送りノートへ記入し、職員間で共有できるようにしている。家族へは電話で報告している。薬の宅配時に薬剤師から説明を受けている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職に在籍はないが、かかりつけ医との連絡が取れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、本人の情報を医療機関に提出し、早期退院に向けて定期的に面会し入院中の情報交換や相談も行き、退院後の受け入れを行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に(契約時)に、ご本人、ご家族に文章にて説明している。看取りを希望されるご家族については、ある程度の方向性を決めておき、主治医、ご家族と連携を取りながらどういう対応がベストか相談していく。	看取りを行っていないため、入居時に「重度化の対応について」を見ていただきながら、入院した場合のホームの対応や延命治療はどうするのかなど家族へ説明し、書面にて確認している。介護度3の認定を機に、再度終末期について家族と話し合っている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し全職員が把握できるよう努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと年2回(日中、夜間想定)の避難訓練を行っている。近隣住民にも協力をお願いをしている。	年2回の避難訓練を実施し、通報の順番や消火器の使い方等指導してもらっている。元消防署員の地域住民が避難訓練に参加することもあった。有事に備え保険証のコピーをバックに入れ、持ち出せるようにしている。発電機を準備しており、水やカップラーメン、乾パン等を備蓄している。災害時を想定し利用者とカップラーメンを食べることもある。BCPの策定には至っておらず今後着手する予定である。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に配慮するようにしている。定期的に研修している。	排泄ケア時は特に自尊心を傷つけないように心がけている。居室のドアは開けたままの利用者もいるが、男性利用者が多く居室で過ごす時間も多いため必ずノックをしている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の意思を優先しているが、自己決定が難しい利用者に関しては職員と一緒に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に食事の準備、後片付けを行っている。	野菜や山菜の皮むき、だまこ作り、食器拭き等利用者が出来ることを支援している。当日は職員が手をつけないリンゴをみて「食べねんだか」と声をかけ、もらった後に調査員に勧めたり、他利用者と分け合って食べたりしていたのが実に微笑ましかった。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を記録している。安全に楽しく食事出来るように調理方法や食事形態も工夫して考え支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日声掛け、介助にて行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	2時間毎にトイレ誘導を行い、排泄チェック表から排泄パターンに合った誘導時間を把握し、トイレで排泄できるよう支援している。難しい場合もすぐにリハビリパンツにせず、なるべく布パンツでと支援している。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量の把握、適度な運動を行っている。また、必要に応じて主治医への相談なども行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者本人の希望に合わせて入浴支援している。また、夕食後や就寝前に入浴希望の方は、その希望に合わせて対応している。	週に2~3回入浴をしている。希望があれば就寝前に入浴も可能である。入浴日以外は昼食後足浴を実施している。当日足浴をしている利用者から「気持ちいい」と大変好評だった。温泉の素を使う等、入浴を楽しめる工夫をしている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介護記録を活用し、個々の生活パターンを重視した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の情報が得られるようにファイルしている。薬の変更時には申し送りをして全職員が把握出来るようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での楽しみ事や趣味を把握し、軽作業などを本人の状態に合わせてお願いしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に合わせて、心身の状態、天候条件などを考慮し、可能な限り散歩や買い物など外出して気分転換できる機会設けている。	春は花見、夏は海へドライブに出かけてソフトクリームを食べたり、道の駅で食事をする等して外出している。近隣の薬王堂へ買い物散歩に出かけるのは日常である。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理はホームで行っているが、外出時、本人の希望があれば職員が見守りし買い物を楽しんでいる。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内でも季節に応じた飾り付けを行っており、また光、温度、湿度の調整を行い不快にならないよう配慮している。	ホールは洗濯物を干していても気にならない程、開放的な広がりがある。過ごしやすい温度に調整しており、季節柄加湿器の設置もしている。利用者と一緒に作った貼り絵を飾り季節感のある装飾となっている。テレビの前のソファで昼寝をするのが習慣となっている利用者もいる。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の行動や入居者同士の関係性など把握し、入居者が楽しく過ごせるよう見守り、支援に努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化による混乱を軽減するため、危険性のない物に限り持ち込みは自由になっている。	電動ベッドと暖房は備え付けであるが、テレビや位牌、家族の写真等、様々な物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレなど印や文字を付け、混乱しない様に支援している。		